

みゅーじあむ・船橋

平成28年3月



第6号

博物館ニュース	[2]	ふなばしめぐり 百庚申	[4]
郷土の歴史 前原	[3]	船橋市広報誌にみる ごみ収集の変遷	[5-7]
船橋の明治・大正・昭和 鉄道の開通 その2	[4]	インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展や事業をご紹介します。

郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館 「くらしの道具 ―飛ノ台史跡公園博物館編―」

平成 28 年 1 月 16 日(土)～ 2 月 28 日(日)まで
開催いたしました。

昨年に引き続き、郷土資料館の収蔵資料の中から小学校 3・4 年生の社会科で学習する「昔のくらし」に合わせた展示を飛ノ台史跡公園博物館で行いました。ブリキの缶の中に洗濯物・洗剤・ぬるま湯をいれ、取っ手を持ち、振って、汚れを落とす「マジック洗濯機」など、今では見るのがなくなった生活の道具、漁業、農業の道具を展示しました。



飛ノ台史跡公園博物館での展示

飛ノ台史跡公園博物館 “旅する土偶” に会ってみませんか？

飛ノ台史跡公園博物館で、一番人気のある展示資料は何だと思いますか？ 実は、わずか 2 センチほどの小さな土偶です。今までに東京都をはじめ、鳥取県、滋賀県など遠方の美術館や博物館から貸出しの依頼があり、そのたびに、日本全国を旅してきました。



ヴァイオリン形土偶
実物大

この土偶は、昭和 61 年に小室町の発掘調査で出土した、およそ 9,000 年前の縄文時代早期のものです。女性の体をとてシンプルに表現し、頭部はついていません。首のところに小さな孔があげられており、木で作った頭部があったという説や鳥の羽根を差し込んだという説があります。

今年度は、徳島県立近代美術館の開館 25 周年記念で開催された「フィギュア展―ヒトガタ、人形、海洋堂―」において展示され、四国の多くの方々に鑑賞していただきました。



「フィギュア」展での展示
徳島県立近代美術館提供

郷土資料館 移動博物館を実施しています。

郷土資料館は耐震補強・エレベーター設置工事等のため休館しておりますが、休館中の事業として、学校などに収蔵資料を持ち込み、展示・解説を行う「移動博物館」を実施しています。1～3 月は市内の小学校に伺い、3 年生を対象に「昔のくらし」に関する展示・解説を行いました。また、市内の遺跡から出土した資料の展示・解説や写真パネルの展示も行っておりますので、ご希望がありましたら郷土資料館までご連絡ください。



小学校での移動博物館の様子

郷土の歴史

まえ
前

ばら
原

前原の地名の由来は、北側にある飯山満から見て前にある原なので、「前原」とついたという説があります。平成 15 年以前は「まいはら」が正式な住所の読みでしたが、住居表示の変更により「まえばら」が読みとなりました。

江戸時代は前原新田と呼ばれていました。道入庵（前原東 5）にある、前原新田の開墾を請け負った天野四郎兵衛によって建立された延命地藏像に刻まれた銘文によると、延宝元年（1673）に代官の許可を受け開かれた村とあります。

村の範囲は、おおよそ現在の前原西・前原東を合わせた範囲です。

開村後まもなく、同じ頃に開村した滝台新田や上飯山満村などの近隣村々と境界争いが起こりました。元禄 6 年（1693）に境界線が確定した絵図が作成されました。図 1 は、絵図の前原新田付近を抜粋したもので、佐倉道（成田道）と御成道（東金道）が分かれる付近や街道筋に人家は見られますが、多くは芝地であったことが分かります。

明治 22 年（1889）、前原新田は周辺の村々と合併し、二宮村大字前原となりました。

明治 28 年（1895）、二宮村大字前原と津田沼村の村境に、津田沼駅が設置されたことで、前原周辺が大きく変わっていきました。津田沼駅が陸軍の演習場の玄関口でもあったため、駅付近には運送業、旅館業、飲食業を営む店が多く出来ました。

昭和 3 年、松井天山によって描かれた「千葉縣津田沼町鳥瞰」を見ると、当時の街並みがよくわかります。

昭和 22 年に、新京成電鉄新津田沼駅～薬園台駅間が開通し、翌年、前原駅が開業しました。開通当初は新京成沿線に人

家は少なく、1 両の電車が走っていました。

昭和 35 年、前原駅近くに、船橋市最初の公団住宅前原団地の入居が始まると、前原周辺にも多くの住宅が建つようになりました。昭和 40 年代になると、津田沼駅周辺の混雑が激しくなったため北口の区画整理が行われ、昭和 50 年代前半には大規模な商業施設が続々と開業し、前原は一大商業地区と閑静な住宅地とを合わせもつ街となりました。

平成 28 年 1 月 1 日現在、前原西・東合わせて 40,207 人が暮しています。（船橋市町丁別人口表による）

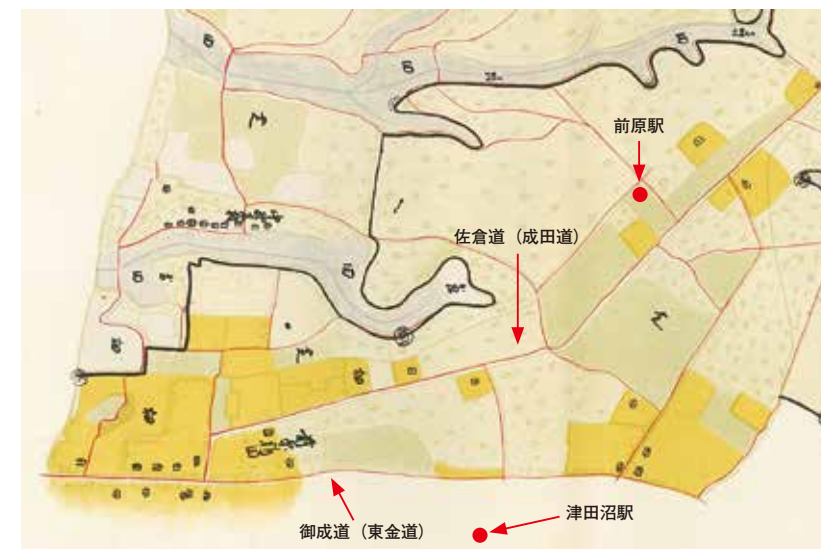


図 1 「元禄六年十二月飯山満外二村対前原滝台地境論裁断絵図」（『船橋市史前篇』付図より前原新田付近を抜粋）
※赤丸・矢印は道名と現在の駅のおおよその位置を加筆表示



図 2 昭和 3 年松井天山画「千葉縣津田沼町鳥瞰」より津田沼駅北側を抜粋

鉄道の開通 その2

戦後、新たに市内を通る鉄道が多く敷設され、表1のように駅が開業しました。以下、開通した鉄道順に列記します。新京成電鉄線は、主に鉄道連隊の演習線を利用し、昭和22年、新津田沼駅～葉園台駅間、翌年、葉園台駅～滝不動駅間、翌々年、滝不動駅～鎌ヶ谷大仏駅間が開通しました。



開業したばかりの西船橋駅北口 昭和33年

昭和44年、営団地下鉄（現：東京メトロ）東西線西船橋駅～東陽町駅間が開通し、東京への鉄道路ルートが増えました。

昭和47年、国鉄（現：JR東日本）総武快速線津田沼駅～東京駅間が開通します。快速線開通に合わせ、船橋駅・下総中山駅の高架が完成し、津田沼駅の駅舎が新しくなりました。



旧津田沼駅舎 昭和35年

昭和53年、国鉄武蔵野線西船橋駅～新松戸駅間が開通。昭和54年、北総開発鉄道（現：北総鉄道）北総線小室駅～北初富駅間が開通しました。

昭和61年、国鉄京葉線西船橋駅～千葉みなと駅

間が開通しました。平成8年、東葉高速鉄道東葉高速線西船橋駅～東葉勝田台駅間が開通しました。現在では9路線、31駅を有する全国有数の鉄道網が発達した市となっています。



船橋駅～津田沼駅間を走るSL 昭和43年

表1 船橋市内の駅と開業年

開業年	開業当初の駅名。() は現在の駅名
明治27(1894)	船橋
明治28(1895)	中山(下総中山)・津田沼
大正4(1915)	中山(京成中山)
大正5(1916)	葛飾(京成西船)・船橋(京成船橋)
大正8(1919)	海神
大正10(1921)	大神宮下
大正12(1923)	松島(塚田)・法典(馬込沢)
昭和2(1927)	花輪(船橋競馬場)
昭和10(1935)	中山競馬場臨時(東中山)
昭和22(1947)	葉園台
昭和23(1948)	前原・習志野・高根木戸・滝不動
昭和24(1949)	三咲・二和向台
昭和31(1956)	新船橋
昭和33(1958)	西船橋
昭和36(1961)	高根公団
昭和41(1966)	北習志野
昭和44(1969)	原木中山
昭和53(1978)	船橋法典
昭和54(1979)	小室
昭和56(1981)	東船橋
昭和61(1986)	南船橋
平成8(1996)	東海神・飯山満・船橋日大前

ふなばしめぐり

ひゃくこうしん

百庚申 前原東5丁目15番

前原東郵便局の脇に小さい石塔が林立しています。これは、庚申塔という石塔を多く建立することでより多くの功德を得ようとする信仰の形態の一つです。江戸時代後期に盛んに行われたものです。ここには、約85基の小さい庚申塔の他に大きな庚申塔・馬頭観世音などがあります。



船橋市広報誌にみる ごみ収集の変遷

路地裏にぽつんと置かれたコンクリート製のごみ箱は、船橋市のごみ収集の歴史を教えてくれる「生き証人」です。

62万人の都市から毎日出されるごみは、今では当たり前のように処理されています。しかし、現在にいたるまでには様々な試みや努力がありました。それは、人口増加に比例して増え続けたごみとの戦いの歴史でもあります。市広報誌を中心にその変遷をみてみます。



海神2丁目にて(平成6年)

1 昭和30年代 ～路地にごみ箱があった頃～

昭和30年…人口約11万5千人 世帯数約2万3千戸
昭和39年…人口約20万3千人 世帯数約5万9千戸



「船橋市弘報」(昭和30年4月号)

昭和29年4月1日、豊富村と合併し、現在の市域となりました。昭和30年4月に「船橋市清掃条例」が施行されます。ここでは、何よりも「清潔保持」に主眼が置かれました。左の絵図にあるように、各家庭の自主的な活動を促す必要が生じてきます。また人口密集地区には、特別清掃地域として指定し、市が「汚物を一定の計画に従って収集し、処分しなければならない」と、行政側の対応をうたっています。

当時は、ごみの種類を、雑芥（紙類の一般ごみ）、厨芥（生ごみ）、危険物の3種類に分別していました。各家庭前に置かれた自前のごみ箱や危険物かごに入

れられたごみを不定期に収集して回る方式でした。リヤカーによる収集から自動車に変えるために、市はミゼット三輪自動車を5台と雑芥運搬用のダンブカーを2台（写真）購入し、輸送力アップに努めます。しかし、10年間で2倍にもふくれあがる人口に伴い、この各戸収集方式にも限界が見え始めます。



「船橋市広報」(昭和36年5月号)

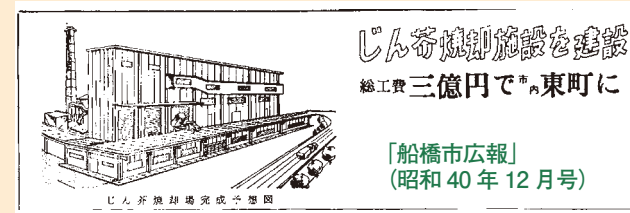
2 昭和40年代前半 ～ポリバケツ収集の頃～

昭和41年…人口約23万8千人 世帯数約6万6千戸
昭和44年…人口約30万5千人 世帯数約9万9千戸



「船橋市広報」(昭和40年11月号)

新しいごみ収集車の紹介記事です。後部扉の開閉が切替レバーで操作がしやすく、投棄時にはごみが攪拌されて出てくるので作業が楽になりました。



「船橋市広報」(昭和40年12月号)

昭和40年12月号の広報誌には、次の説明があります。「本市のごみ収集は、市内住民の87%にあたる18万7千人から排出される約150トンのゴミを一般雑芥と厨芥にわけて収集し…中略…さらに現在造成中の日本住宅公団による習志野台団地と、その周辺の発展が予想されているので、これに応じられるだけのじん芥処理能力をもつ施設を緊急に整備しておかなければならなくなりました。」そこで市内に総工費3億円をかけて東町にごみ焼却施設を建設することになりました。



「船橋市広報」(昭和42年3月号)

このごみ処理施設には、50トン炉が2基設置され、24時間稼働により一日300トン进行处理できるという当時県下最大のものでした。

「船橋市広報」
(昭和42年6月号)



長年使われてきた各家庭のごみ箱が消えるときがやってきました。従来では雑芥は各戸のごみ箱、厨芥はポリバケツでの収集でした。この雑芥と厨芥を混合し、ポリバケツで一括して収集するという方式に変更するのです。市民にとってはごみ出しの手間が省けるわけですから便利になります。

この方式は、ごみ焼却施設の能力向上で可能になったことです。また、ごみの急激な増加と交通事情の悪化に伴う必要に迫られての変更でもありました。

3 昭和40年代後半 ～紙袋収集の頃～

昭和46年…人口約34万6千人 世帯数約9万9千戸
昭和49年…人口約40万7千人 世帯数約12万戸

昭和30年代に前原団地、高根台団地、昭和40年代には、習志野台団地、夏見台団地、若松団地、金杉台団地と団地の造成が続きました。それに伴い

短期間での人口急増がありました。また、新京成線沿線での住宅地開発も進み、市内全域にわたってのごみ収集のシステム作りと処理・焼却施設建設が急務となります。



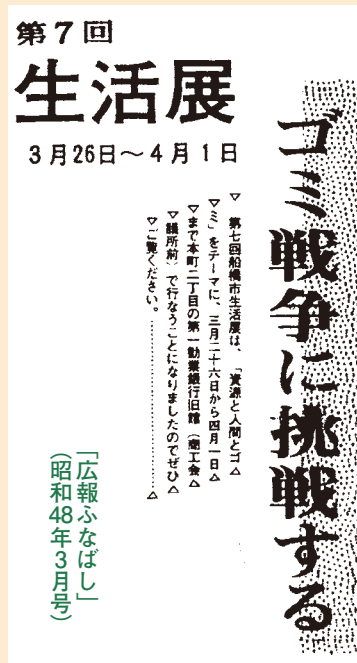
「広報ふなばし」(昭和47年9月号)

昭和47年10月、新たに西浦町ごみ焼却場が稼働します。埋め立て地内の2万5千坪の敷地に建設された焼却場は、1日300トン进行处理できる能力を持っています。従来稼働の処理場と合わせ1日600トンのごみ进行处理できるようになったわけです。とはいえ、40万都市船橋では、増え続けるごみ処理だけにとどまるだけではありませんでした。

「ゴミ戦争」という言葉が使われるようになったのはこの頃です。社会経済の進展により消費生活が大きく変化しました。それは、ごみの大量化、多様化、大型化への対応を余儀なくさせました。

当時、顕在化した公害問題とも相まって、ごみ処理は、「戦争」とも言える深刻な問題となってきたのです。

ポリバケツ方式も次第に姿を消すこととなりました。昭和48年10月1日から指定紙袋による回収方式に変更したのです。当時の広報誌



第7回 生活展

3月26日～4月1日

ゴミ戦争に挑戦する

▼第七回船橋市生活展は、「東海と南エトピア」をテーマに、三月二十六日から四月一日まで本町二丁目の第一勧業銀行旧第一勧業ビルで開所。で行なうことになりましたのでぜひご覧下さい。

「広報ふなばし」
(昭和48年3月号)

紙袋を採用、週3回収集へ 10月1日より 収集方法が変ります

「広報ふなばし」(昭和48年8月号)

可燃ごみは週3回、不燃ごみは週1回の回収になりました。収集場所にステーション表示板が設置されたのは翌年の7月です。

には「ごみは5年前、年間3万5千トンでしたが、昭和47年度は8万8千トンと約2.5倍の量となっています。従って、いままでの週2回収集では容器には入りきれなくなったり、街全体が汚れたりすることが予想されました。また、若潮国体開催をひかえて街の美化向上が叫ばれる中で、これら諸問題を解決するため、10月1日より週3回収集を実施します。」と記されています。これにより、

「広報ふなばし」
(昭和49年7月15日号)



4 昭和50年代 ～ビニール袋収集の頃～

昭和51年…人口約43万2千人 世帯数約12万7千戸
昭和59年…人口約50万5千人 世帯数約16万6千戸

ゴミを見直そう、 有価物回収とゴミの減量

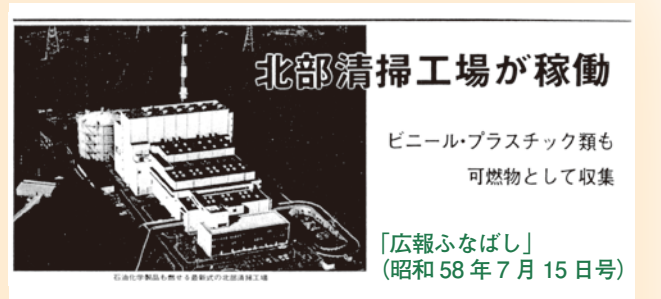
「広報ふなばし」(昭和51年5月1日号)

昭和50年度、市ではごみ処理に年間18億円を要していました。さらに、増加するごみ処理に対して新焼却場の建設を計画していました。

今までの大量消費の在り方を見直すため、ごみ減量、有価物回収、大型(粗大)ごみの扱いが大きな課題となってきたのです。昭和50年代初頭からこれらへの取り組みが具体的に動き始めました。

毎月1回 「大型ごみ」の収集を実施

同(昭和52年5月1日号)



北部清掃工場が稼働

ビニール・プラスチック類も
可燃物として収集

「広報ふなばし」
(昭和58年7月15日号)

昭和58年4月から北部清掃工場(大神保町)が稼働します。今まで焼却炉の大敵だったプラスチック、ビニール等の石油化学製品類も可燃物の扱いになりました。収集用の袋が紙からビニールになっていきます。

昭和54年7月にリサイクルセンター(金杉町)が開所します。週1回の麻袋によるビン・缶・金属の有用不燃物の回収が本格化します。「リサイクル」という言葉が一般的になったのもこの頃です。ここで、ほぼ現

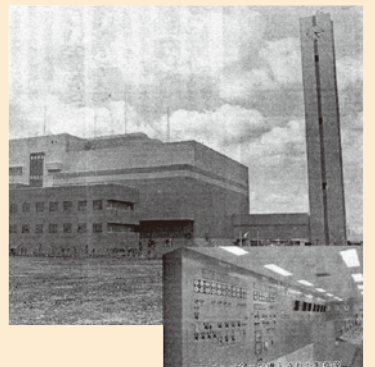
「広報ふなばし」(昭和58年6月1日号)



5 平成から現在へ

平成元年…人口約53万2千人 世帯数約18万4千戸
平成21年…人口約60万人 世帯数約25万7千戸

平成元年9月、1日375トンの処理能力を持つ南部清掃工場(潮見町)が稼働します。北部清掃工場が改修工事後再稼働したのは平成4年4月です。これにより、現在南部・北部両清掃工場で1日810トンの処理能力を持つことになりました。



「広報ふなばし」
(平成元年8月15日号)

平成7年6月4日、第1回目の「ごみゼロ・クリーン作戦」が市内全域で実施されました。市民も参加してのきれいな街づくりが推進されているのが船橋の現在の姿です。

郷土資料館

耐震補強工事・エレベーター設置工事等のため、平成29年4月（予定）まで休館致します。ご迷惑をおかけいたします。

休館中の連絡先は今まで通りですが、連絡可能な時間は、月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）の8時45分～17時15分となります。ご了承ください。

休館中の事業として、収蔵資料・写真パネルの貸出・展示を行っております。ご要望がございましたら、郷土資料館までご連絡下さい。

飛ノ台史跡公園博物館

★第16回縄文コンテンプラリー展「縄文ぐるぐる」

縄文文化からインスピレーションを得て、作家が様々なアート作品で表現します。

平成28年7月24日(日)～9月4日(日)を予定しています。

☆バスで訪ねる博物館見学 平成28年5月21日(土)

今回は、府中市郷土の森博物館他を予定しています。

詳細は、広報ふなばし5月1日号でお知らせいたします。



協力 船橋市華道連盟

表紙の写真から

～甦る縄文土器 神保君雄氏撮影～

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震から、早いもので5年が過ぎました。皆様の記憶にも未曾有の大地震とそれに伴って引き起こされた東日本大震災は、深く心に残っていることと思います。飛ノ台史跡公園博物館においても、収蔵資料の中には壊れてしまったものがありました。今回撮影した高根木戸遺跡出土の土器は、展示中に被災し大きく破損したものです。平成26年度・27年度の2か年にわたり修復を行い、展示できる状態に復元いたしました。

甦った美しい姿を、皆様に、ぜひご覧いただきたいと思います。

ご利用案内・交通案内

郷土資料館 (平成27年10月1日～)

受付時間 午前9時～午後5時
休業日 土曜・日曜・
 祝休日及び年末年始
住所 船橋市薬円台4-25-19
電話 047-465-9680
FAX 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成電鉄 習志野駅下車 徒歩10分
 JR津田沼駅北口から
 習志野新京成バス「高津団地中央」「北習志野駅」行き、または、ちばレインボーバス「八千代緑が丘駅」「船尾車庫」「JR木下駅」行き
 「郷土資料館」下車徒歩1分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
入館料 一般100円 (団体20名以上70円)
 児童生徒50円 (団体20名以上30円)
 市内在住中学生以下 無料
住所 船橋市海神4-27-2
電話 047-495-1325
FAX 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン (野田線)
 新船橋駅下車 徒歩8分
 京成線 海神駅下車 徒歩15分
 東葉高速鉄道 東海神駅下車 徒歩12分
 新京成バス
 JR船橋駅北口から建鉄循環
 「海神中学校」下車 徒歩1分



休館日カレンダー

4月							5月							6月							7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3	4					1	2														
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31										

は飛ノ台中央公園博物館休館日

郷土資料館は平成29年4月(予定)まで休館致します。

□ は飛ノ台史跡公園博物館休館日 郷土資料館は平成29年4月(予定)まで休館致します。